

和伎母故我許己呂奈具左爾夜良無多米於伎都之麻奈流之良多麻母我母、
思良多麻能伊保都都度比乎手爾牟須妣於許世牟安麻波牟賀思久母安流香、

右五月〇天平感十四日大伴宿禰依興作

〔山家和歌集雜〕いしこへわたりたりけるに、井かひと申はまぐりに、あこやのむねと侍る也、それ
をとりたるからを、たかくつみをきたりけるをみて、

あこやどる井がひのからをつみをきて、だからの跡をみする也けり
〔渡邊幸庵對話〕一真珠は唐にても重寶とす、予も所持したりとて、見せ被申候、常體より大き成真
珠也、銀の香箱に入て被置ける也、光り有て、太だ稀也、真珠砲の貝、伊勢立貝、今一色語られけれ共
失念。○下

〔倭名類聚抄〕蚌蛤 兼名苑云、蚌蛤 放甲二音、蚌或作
〔箋注倭名類聚抄〕波末久利、濱栗也、其形似栗子在海濱也、本草和名云、和名多加比、新撰字鏡、
蚌也、長田加比、蚌大田加比、源君不從之也、按蚌訓多加比爲允、今加賀美濃曰多賀比、近江曰土
夫賀比、其波末具利宜以文蛤充之、蛤是介屬、兩甲相合者之總名爾、故說文云蛤、蜃屬有三、皆生於
海、厲千歲雀所化、秦人謂牡蠣、海蛤者百歲燕所化也、魁蛤一名復累、老服翼所化也、今本說文多誤
脫、今依爾雅音義引王念孫曰、蛤之言合也、兩殼相合也、○中按爾雅云、蚌含漿蓋兼名苑本於此、郭
注爾雅云、蚌卽蜃也、月令注、大蛤曰蜃、晉語注、小曰蛤、大曰蜃、郝曰、蚌類多蘊伏泥中、含肉而饒漿故
被含漿之名矣、

〔類聚名義抄〕蚌蛤 放甲二音、ハマカリ 今ツヒ

〔下學集上氣形〕蛤 蛤二字 同

〔東雅鱗十九介〕蚌蛤 ハマグリ 倭名鈔に兼名苑を引て、蚌蛤はハマグリ、一名含漿と註す、東壁本草に